

HEART NEWS

大阪市立総合医療センター循環器センター

Vol. 21



リオ・オリンピックが終了しました。4年後はいよいよ東京オリンピックです。4年後には、東京のみならず大阪や日本，世界を取り巻く状況が大きく変化しているかもしれません。循環器医療の世界でも多くの新しい治療やパラダイムシフトが登場していることと思われます。当センターでは最近経カテーテル的大動脈弁留置術（TAVI）を導入したばかりですが、これからも新しい医療を積極的に取り入れていくつもりです。写真はNHKテレビ放送から抜粋。

ハートニュース Vol. 21 巻頭言

残暑ようやく衰え、皆様ますますご健勝のほどお喜び申し上げます。

今回は 循環器内科からは、当院で昨年11月から開始しました心房細動のクライオアブレーションの成績について御報告します。また心臓血管外科からは、7月から大阪市立大学附属病院からスタッフとして着任された、末廣泰男先生からの新任の挨拶を掲載しています。また10月15日(土)に、さくらホールで第18回心臓病懇話会を開催します。今回のテーマは「不整脈治療の最前線」です。多くの先生方の参加をお待ちしています。

今後も循環器内科、心臓血管外科一丸となって皆様のご要望に迅速・確実に応えられるよう取り組んで参りますので今後ともよろしく申し上げます

大阪市立総合医療センター

循環器センター長
循環器内科部長

成子 隆彦

発作性心房細動に対するクライオアブレーション

循環器内科医長 占野賢司

➤ 心房細動に対するカテーテルアブレーション

心房細動の原因となる期外刺激の8~9割が肺静脈を起源とすることがわかって以降、心房細動に対する肺静脈隔離術が広く行われるようになりました。従来の高周波アブレーションでは肺静脈起始部を1点ずつ焼灼し、線とすることで、肺静脈を電氣的に隔離します。

新たに登場してきたクライオアブレーションではバルーン（クライオバルーン）を用いて肺静脈起始部を1回の冷却で隔離することができるようになり、手技時間を短縮することが可能となりました。

➤ 当院での経験

当院では2015年11月より発作性心房細動の患者さんに対してクライオバルーンによるアブレーションを開始しています。現在、60症例を超える患者様に施行しておりますが、大きな合併症もなく、手技時間も短縮しております。成功率も高く(平均follow up期間約200日以上で9割以上の非再発率)、我々も有効な治療法と実感しております。

当院のクライオアブレーションの成績

➤ 2015年11月～ 計60症例 発作性心房細動

➤ 合併症

- ・心タンポナーデ 0例
- ・脳梗塞 0例
- ・食道関連合併症 0例
- ・横隔神経麻痺(退院時) 1例(2%)
- ・一過性ST上昇 3例(6%)

➤ 成績(3か月以上経過した45例)

- ・平均follow-up期間 203日
- ・再発は3例(6.7%)。

心房細動は発作性から持続性心房細動へと進行し、心房細動の持続期間が長くなれるほどアブレーションによる治療成績が低下することがわかっています。心房細動に対する根治治療は早期治療が非常に重要と考えています。そのため、発作性の時期に短時間で施行でき治療成績も良好なクライオアブレーションを積極的に行っていきたいと考えております。

循環器内科外来担当医のご案内

	月	火	水	木	金
午前	阿部	松村	占野	紙森	成子
午後	阿部	松村	吉山	紙森	成子
	ペースメーカー外来				

地域初診外来

	月	火	水	木	金
午前	成子		松本	成子	阿部
午後			占野(不整脈)		

心臓血管外科のご紹介



医長
末廣 泰男

7月より大阪市立総合医療センター心臓血管外科に赴任いたしました、平成18年卒の末廣泰男(すえひろやすお)と申します。研修医修了後、関西ろうさい病院、大阪厚生年金病院(現JCHO大阪病院)での勤務を経て、4年間の大学院生活で学位を取得し、今年の7月より勤務させて頂くことになりました。

私が心臓血管外科を志した理由としましては、人工心肺などを使用した手術の特殊性、また術後管理においては心臓のみでなく全身を診るということに大きな魅力を感じたからです。今年の3月に大阪市立大学にて学位を取得しましたが、学位論文の題名は「開心術後急性期におけるトルバプタンの有用性と安全性についての検討」でした。これは人工心肺使用開心術症例の術後急性期において選択的バゾプレシンV2受容体拮抗薬であるトルバプタンを使用し、従来利尿薬使用群と術後尿量、電解質値などを比較し、術後経過について検討するという主旨の論文です。トルバプタン使用群は術後血清ナトリウム値が有意に低く、また尿量が有意に多かったのですが、腎機能の悪化は認めませんでした。トルバプタンは利尿薬特有の副作用を気にせず使用することができ、術後早期から浮腫を軽減させ、早期退院につながるという結論に至りました。大学院生活で培った経験、知識を臨床で役立てたいと考えている次第です。

まだまだ未熟ではありますが、色々なことを勉強しながら日々頑張っていきたいと考えております。御迷惑をおかけすることも多々あると思いますが、何卒よろしくお願い申し上げます。

心臓血管外科外来担当医のご案内

	月	火	水	木	金
午前	末廣	佐々木	賀来	佐々木	尾藤
午後	末廣	佐々木	賀来	佐々木	尾藤

診察予約(地域医療連携室)

TEL:06-6929-3643 FAX:06-6929-0886

平日 8:45~20:00

今号の循環器日記

我々、循環器センターでは、臨床・教育・研究の3つのいずれもが欠けることのないように力を入れております。国内学会をはじめ国際学会でも発表を行ったり、また、教育プログラムの運営を行ったりしています。

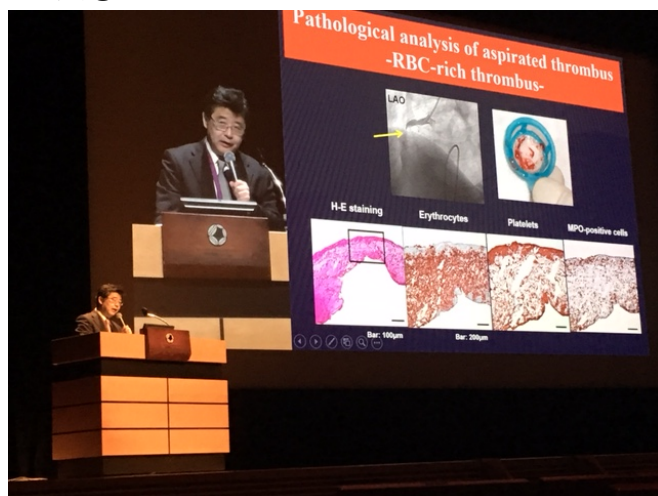
写真①は、7月に北海道で開催された日本不整脈心電学会に、占野医師と吉山医師、松尾医師が発表のために参加した際の写真です。写真②は、東京で開催された日本心血管インターベンション治療学会（CVIT）において成子センター長が発表した際のものであります。

このような機会に我々の臨床や研究の成果を広く伝えることは勿論ですが、我々自身もできるだけ多くのことを学んで自施設に持ち帰り、臨床・教育・研究にフィードバックし、ひいては患者さんのためになることが最大の目的です。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

写真①



写真②



第18回心臓病懇話会

『不整脈治療の最前線』

平成28年10月15日(土) 午後3時より

大阪市立総合医療センター さくらホール

循環器疾患の中で、急増している不整脈疾患を中心に上記のテーマを企画いたしました。多くの先生方のご参加をお待ちしております。

当院循環器内科、心臓血管外科は近隣の先生方からの循環器救急疾患をさらに迅速に受け取ることができるようにするため、循環器センター直通電話(ハートライン)を設置しております。

ハートライン(循環器センター直通電話)

06-7662-7979

その他の場合は、御面倒ですが、

06-6929-1221(病院代表)から呼び出して下さい。